

I 平成 26 年度事業の成果と課題

9 年目を迎えた食育サポートセンターは認知度も上がり、平成 26 年度も「あすなる隊」の活動は県内一円からの多様な団体のニーズに応えることができた。本学生の「あすなる隊」への登録者数は、平成 25 年度は 207 名に対し 181 名と減少したものの食育支援活動回数は、平成 25 年度と同じ 24 回と例年並みの活動を行い地域の食育推進にも貢献できたと思われる。教材の貸出による支援回数は平成 25 年度の 34 回に対し 31 回と、県内外の食育活動に幅広く活用されている。

平成 26 年度の活動としては、例年どおり健康栄養学科 1 年生を対象に実施している味覚教育、専門教育科目の食育に関する学外実習の取り組み、学生食育ボランティアの派遣、県の委託事業である「食育推進リーダー養成講習会」の実施等に取り組んだ。

本年度は、昨年同様に神崎市と共催にて学生主体で企画・運営を行った食育講座「食まなび塾」の第 2 弾を実施した。今回は、神崎市の横武クリーク公園「葦辺の館」を利用し、子どもたちを対象に育んでもらいたい力（マナー、料理のスキル、食文化など）を体験型講座とした。また、講座を行うにあたり、神崎市の食育推進活動にも貢献できたと思われる。ほかには、地元企業、神崎市との協同により開発した「神埼アスパラにゅうめん」を九年庵の一般公開に合わせて限定数ではあるが販売できた。

県の委託事業である「食育推進リーダー養成講習会」では、「和食」に視点を置いた講習会を開催し、120 名の参加者を得た。事例として、行政から住民参加型の食育活動について、小学校からは、校内食育の取り組みについて発表を行い、ディスカッションでは「地域で日本食をつなぐ食育活動」をテーマに、各機関・団体の活動の啓発や連携・協働に貢献できた。

学生の食を通したボランティア活動は学生の異世代交流に役立っており、学生による活動後の自己評価では、実践力以外の項目すべてにおいて平成 25 年度に比べ向上した結果となった。また、派遣先からは活動に対する責任感や礼儀・マナー、実践力、協働力などについて評価されている。

今後も、多くの学生が積極的に参画し、教員と協働して大学の食を通した地域貢献活動を強化していくことが必要と思われる。

主な成果

- ①「食育サポートセンター」が食育の拠点として定着している。
- ②学生の食を通したボランティア意識が着実に広がっている。
- ③「さが食育フェスタ 2014」を通して、佐賀県の食育支援に貢献できた。
- ④神崎市との共催した食育講座「食まなび塾」を通して、神崎市の食育推進に貢献できた。
- ⑤保育園、小学校、地域での食育活動に参画することで、学生が異世代交流を体験できた。

課題

- ①関係教員が個々の専門性を生かし、あすなる隊へ助言、指導を行い、食育プログラムの構築について更に積み重ねていく必要がある。
- ②活動を通して、学生の学習意欲に関する行動変容、活動実施に関する事業評価指標を確立させていく必要がある。

平成 26 年度食育サポートセンター事業評価及び課題

事業区分	担当事業	事業評価	課題
推進体制	食育サポート運営委員会の主宰	<p>委員会には、部会が設置できることから実務レベルの作業部会において、各事業の企画について円滑に取り組むことができた。</p> <p>地元神崎市との連携・協定の取り組みにおいて、神崎市及び地元企業との協同により開発した「神崎アスパラにゅうめん」の限定販売を行うことができた。</p> <p>平成 25 年度に引き続き、学長が「食育ネットワークさが」の会長に就任され、構成団体へ大学の周知が更に拡大した。</p>	<p>学生組織の強化と自主活動を推進していく必要がある。</p> <p>神崎市との連携を更に強化する必要がある。</p> <p>構成団体との連携を強化する必要がある。</p>
	学内組織への参画	<p>「あすなろうセンター」への食育に関する学外活動の情報提供を行い、連携を図ることができた。</p>	<p>学外活動体験に関する連携が引き続き必要である。</p>
	学生食育ボランティアの組織体制	<p>平成 26 年度学生食育ボランティア「あすなろ隊」隊員数は 181 名であったが、活動する隊員が固定化している傾向が見受けられる。</p> <p>組織化したグループの「きずなレポーターグループ」は県内の食と農に関する情報を発信した。</p>	<p>隊員の実質的な活動が定着するように更に支援していく必要がある。</p> <p>学生の自主性を尊重した主体的な活動を推進していく必要がある。</p>
	県の委託事業等の実施	<p>「食育推進リーダー養成講習会」を県より受託して 9 年目を迎えた。生産現場・地域で活動するふるさと先生や食生活改善推進員等、食育推進に関わる関係者の共通理解が得られるとともに、修了者の活動が地域に定着してきている。平成 26 年度は、「伝統的日本食（和食）」に視点を置いた講習会を開催し、日本食（和食）について参加者の取り組みの啓発に繋げることができた。</p>	<p>研修内容や対象者の拡大について検討する必要がある。</p>
	専門教育	<p>専門教育科目への食育の導入</p>	<p>「栄養教育論実習Ⅰ」において、地元保育園・小学校で学外実習を行った。これにより、学生は園児・児童をを前にして教材の選定をはじめ、対象者に適した栄養指導の重要性を認識することができた。</p>
食育プログラム構築のための活動	<p>学園祭での食育体験コーナーの出席</p>	<p>非常食についての食育体験コーナー設けた。(社)日本栄養士会、(公社)佐賀県栄養士会の協力により、「災害支援医療緊急車両」を展示。非常食の実演・試食配布、展示、クイズ等、学生達の活動となった。</p>	<p>学生主体の企画・運営ができるように支援していく必要がある。</p>

	<p>教材の開発及び貸出</p> <p>保育所・学校での活動</p> <p>地域での活動</p> <p>活動の評価</p>	<p>実用新案に登録された「食育カード」は、わかりやすい食育教材として、県内外の食育活動に幅広く活用されている。</p> <p>食事と運動のエネルギーバランスをわかりやすく学習するための教材「食育てんびん“はかるくん”（実用新案登録）」については、県内外からの貸出のニーズが高まってきた。</p> <p>各種教材、機器の貸出は、31回で楽しく分かりやすい教材として利用されている。</p> <p>地元保育園や小学校、中学校、高等学校の食育活動を支援した。活動を通して学生は、食育の大切さ、食事のアドバイスをする喜びを感じることができた。</p> <p>神崎市との共催で子ども達への食育講座「食まなび塾」を実施し、市の食育推進に貢献した。</p> <p>活動を通し、地域の人とのコミュニケーション力の向上、学生主体の活動の良い機会となった。</p> <p>平成26度も自己評価に関する意識調査を行った。これによると、平成25度と比べ、企画、創造力、コミュニケーション力、協働力、実践力のすべてにおいて向上していた。</p>	<p>今後も多様な教材の開発を行う必要がある。</p> <p>「食育てんびん“はかるくん”」の商品化を検討する必要がある。</p> <p>活動対象の選定、継続教育の検討も行う必要がある。</p> <p>今後も神崎市への支援を継続していく必要がある。</p>
<p>食育サポートセンター運営</p>	<p>広報活動</p>	<p>本学のホームページのトップに「食育サポートセンター」の活動報告を随時掲載し、情報発信を行っている。 (http://www.nisikyu-u.ac.jp/food/)</p> <p>平成25年度に引き続き、家族だんらん2014「家族だんらんカレンダー」に食育サポートセンターの教材が掲載され、県内小学校新1年生に配布された。県内全域に食育サポートセンターの活動の一端を紹介することができた。</p>	<p>今後は更に、学外からのニーズに対応した情報提供の体制の充実を図る必要がある。</p>

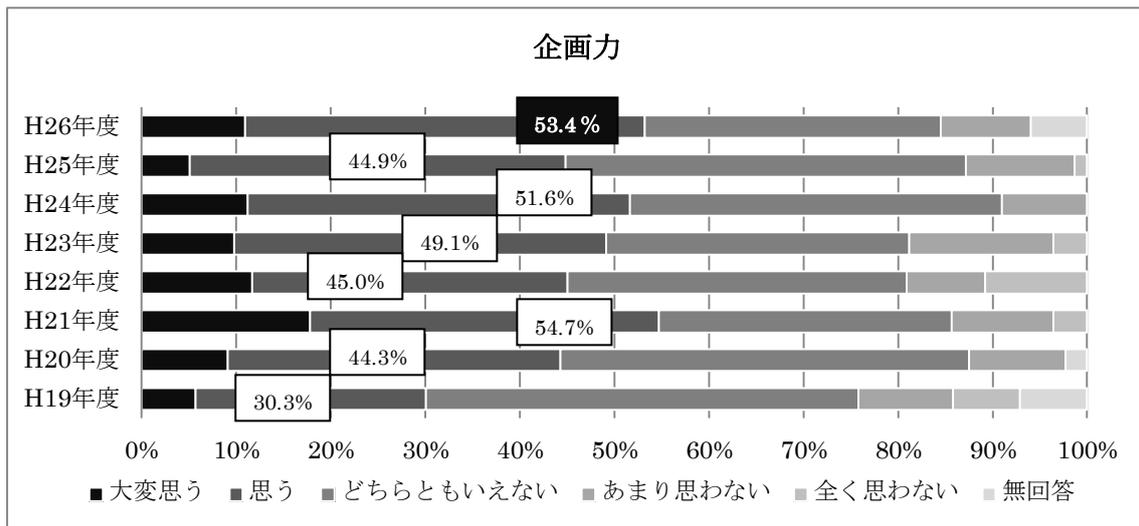
学生食育ボランティア「あすなろ隊」活動者の自己評価結果

○自己評価の方法

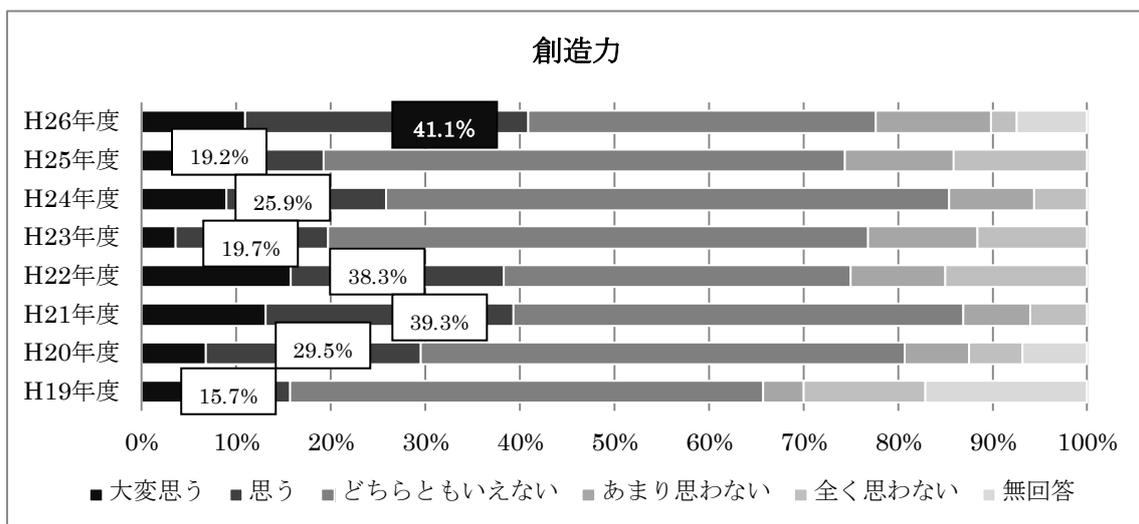
対象：平成 26 年度にボランティアとして食育活動に参加した学生 73 名

方法：企画力、創造力、コミュニケーション力、協働力、実践力の 5 つの項目について自記式により 5 段階で評価

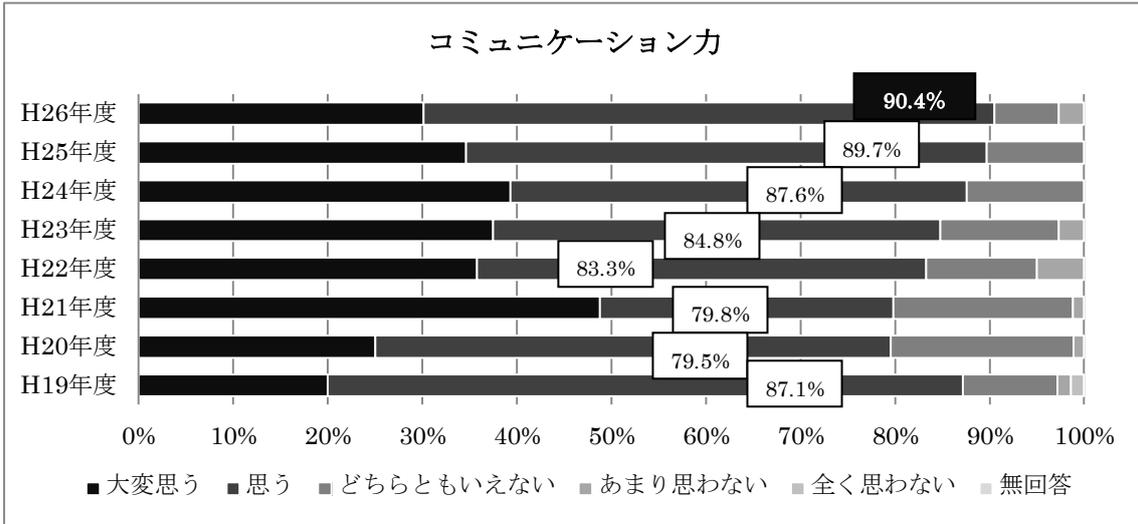
◆企画力



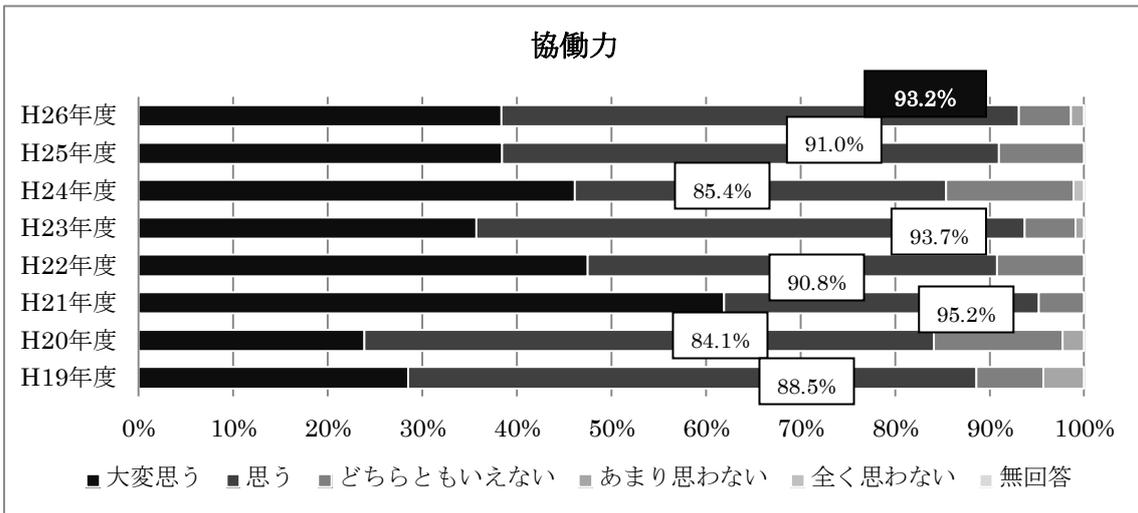
◆創造力



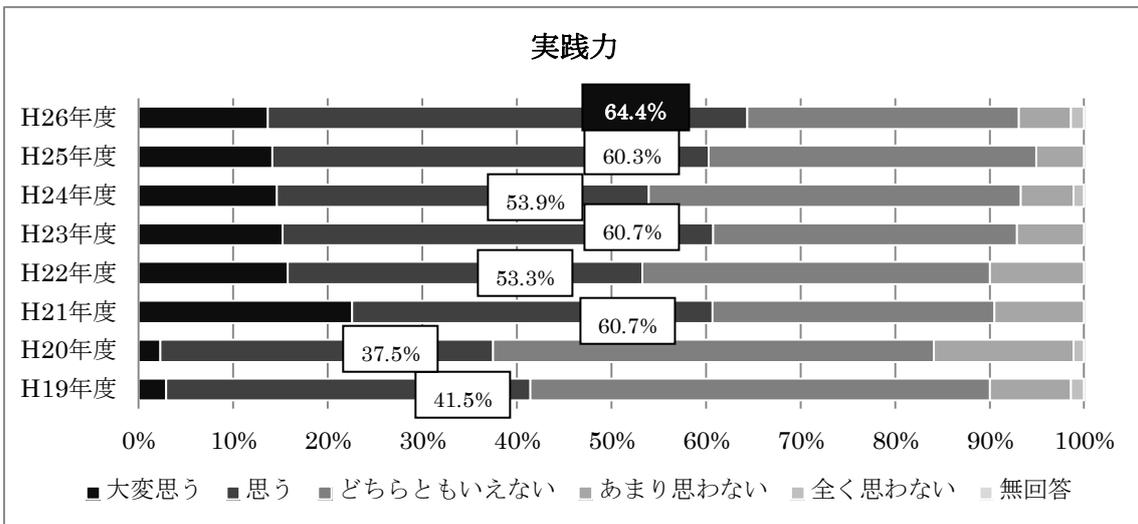
◆コミュニケーション力



◆協働力



◆実践力



II 味覚教育と専門教育の実施

1. 味覚教育

味覚は、ヒトの五感の一つであるが、将来管理栄養士になった場合に必要な能力の一つともいえる。健康栄養学科では、平成19年度から1年生を対象として食味テストを行っている。また、この検査は佐賀県産の極上海苔「有明海一番海苔」を選定する食味検査員の認定試験を兼ねて行っている。「有明海一番海苔」は、県と県有明海漁協が平成19年度から売り出された極上海苔で、消費者の視点から味を厳選してもらおうと検査員が募集された。学生にとっては、佐賀の特産である海苔について学ぶとともに、本物の海苔を味わうよい機会となっている。食味テストには、閾値に調製した塩化ナトリウムやカフェインなどの水溶液5種類と無味の水を飲み比べ、甘味、塩味、酸味、苦み、旨味を識別するという味覚テストと、3種類の海苔を食べ比べて柔らかさの順序を判定する柔らかさのテストがある。合格の基準は、4味以上を識別し、海苔の柔らかさの順序をすべて当てるというものである。

今年度は、平成26年7月2日に実施し、124名が受験した。そのうち、48名が合格し、「有明海一番海苔」食味検査員認定証を取得している。平成19～26年度の合格者の結果を表1に示す。合格率は、38.7%となり、例年に比べて高い合格率となった。なお、年度間の比較については、用いた海苔が毎年異なったりすることから、単純に比較はできない。

この検査を通して、日頃の味付けを薄味にしようと考え直す学生もおり、味覚の重要性が伝わったと思われる。また、地元佐賀県でとれる本物の海苔を味わうことで、地産地消に繋げたい。

表1.食味テストの結果

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	合計
受験者(人)	113	114	99	117	110	109	135	124	921
合格者(人)	8	13	26	57	21	31	42	48	246
合格率(%)	7.1	11.4	26.3	48.7	19.1	28.4	31.1	38.7	26.7



佐賀新聞（平成26年7月4日）

2. 専門教育

＜栄養教育論実習Ⅰにおける小学校・保育所への学外実習＞

目的 栄養教育論実習においてライフステージ別の集団栄養教育を学習するが、実際の対象を設定することが難しく、また教育の臨場感にも欠ける。また、「食育」を支える次の世代として子ども達の食の現状や食育の現場に携わることは非常に大切である。そのことから平成25年度に引き続き、集団栄養教育の内容を「食育」とし、神埼市内のちよだ保育園、神埼保育園、仁比山小学校に協力を頂き、園児・児童を対象とした学外実習を行った。

内容 1クラスはちよだ保育園、2クラスは神埼保育園の3・4・5歳児を対象とし、グループごとに担当クラスを決定した。3クラスは仁比山小学校1~6年生を対象とし、グループごとに担当クラスを決定した。担当クラスの園児・児童の特性を知るために、ふれあい日を設けた。ふれあい日で園児・児童に接することにより、園児・児童の発達段階、興味関心等を観察した。それをもとに、教育テーマを決定し、教育案・媒体を作成し、学内での模擬教育を行った後、実際の教育を行った。

各グループの教育テーマは、以下の通りである。

1クラス	2クラス	3クラス
野菜を好きになろう	旬の野菜を知ろう	好き嫌いをせずに残さず食べよう
色んな野菜を食べよう	よくかんで食べよう	食事のマナーを身につけよう
残さず食べよう	野菜を好きになろう	食事のマナーを守って、感謝して食べよう
朝ごはんを食べよう	食べ物の働きを知ろう	バランスのよい食事を知ろう
朝ごはんは元気のもと	食べ物に感謝しよう	バランスよく残さず食べよう！ ～食べ残しを0にしよう～

日時

＜ちよだ保育園＞ 平成26年6月6日（金）9：50～10：45 ふれあい日
1クラス 平成26年7月18日（金）9：50～10：45 発表日

＜神埼保育園＞ 平成26年5月19日（月）14：40～15：30 ふれあい日
2クラス 平成26年6月30日（月）14：40～15：30 発表日

＜仁比山小学校＞ 平成26年5月16日（金）12：35～13：35 ふれあい日
3クラス 平成26年6月27日（金）12：50～14：15 発表日

学生 栄養教育論実習Ⅰを履修した健康栄養学科3年生
1クラス31名、2クラス41名、3クラス40名

<実習の教育的効果>

普段、学生は園児・児童とふれあう機会が少なく、接する前は、不安や苦手意識が強い学生が多かった。実際にふれあうことにより、対象の特性を知ることができ、苦手意識も払拭されていたことから、異世代とのコミュニケーションの場という点でも意義があったと考える。また、「食育」を幼少期から行うことの必要性について気づけたことも大きな収穫だったと言える。

学内での栄養教育体験に比べ、実際の対象を設定することにより、学生の意欲・達成感につながることができた。学生の感想の中にも「わかりやすく話すことや興味を引くことの大切さ、園児・児童の理解度を知ることができた」、「園児・児童たちの反応を得ることが出来、栄養教育の楽しさ・難しさに気づけた」、「栄養士の仕事・責任について考えることができた」等があり、学生が真剣に取り組んだことが実際の反応として返ってくることにより、自分自身を省み、改善へとつなげる材料にもなった。今後もこのような活動をしたいたとすべての学生が答えていたことから勉学へのやる気を引き出す教育効果があったといえる。

<今後の課題>

神崎市との食育連携を図るために、神崎市内にあるちよだ保育園と神崎保育園を実習園として選んだ。また、3クラスは栄養教諭を目指すものが5名いることから対象を小学生とし、仁比山小学校を選定した。今年度も現場で使える教材作りをするように指導し、学生も完成度の高い教材を作成した。保育園では園で栽培している野菜の育て方、観察のポイント、食べ方、料理など野菜に興味を持ち、好きになってもらえるような内容や朝食の大切さについて考える内容を展開し、園側のニーズを取り入れることができた。来年度も来てほしい、恒例行事にしてもらいたいとの声も頂き、好評であった。

小学校においては、担任の先生に事前アンケートをとり、実施してほしい内容について確認をし、ニーズに対応できるようにした。しかし、時間がタイトなため、教育内容や実施について対象園・小学校とのやり取りや評価が十分に行われていないのが課題である。今後、園や学校に負担のない評価等の在り方について検討し、次年度につなげていく。



Ⅲ 学生食育ボランティアあすなろ隊

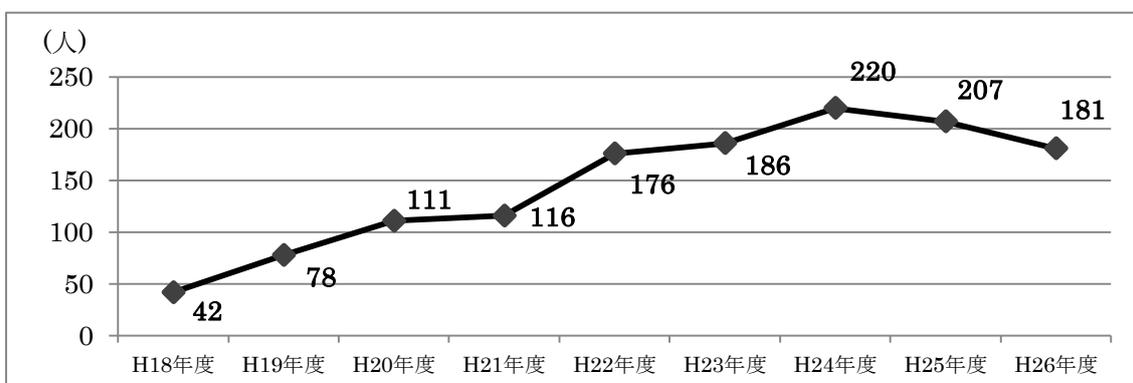
1. 隊員構成

永原学園の教育理念を象徴する言葉『あすなろ（翌檜）』は、学生が自らの可能性を信じ、自らの力によって、その持てる才能を開花させ、将来の大きな目標に向かって突き進む姿勢を意味する。

「学生食育ボランティアあすなろ隊」は、西九州大学に在籍する学生の有志で構成されており、施設や自治体の行事やイベントへ参加し、“あすなろう”の精神で、食の体験活動をサポートしている。

現在、1年生 30名、2年生 37名、3年生 80名、4年生 34名の計 181名の有志が活動している。（平成 27年 3月）

◆あすなろ隊員数の年次推移（平成 18年度～平成 26年度）



◆あすなろ憲章

私達あすなろ隊員は、以下の項目を遵守し、県内の保育園、学校、地域における食育推進ボランティア活動を通し、自らの資質・能力を向上させるとともに、子どもを中心とした食育の充実を図り、豊かな人間性や生きる力を身に付けさせ、地域の食育活性に取り組みことを誓います。

第一

保育所、幼稚園などで行われる食育活動に可能な限り積極的に参加し、西九州大学生としての誇りを持って活動します。

第二

現場での活動に関しては、幼児や児童の安全を第一に行動するとともに、自身並びに協働する方全員の安全を念頭において活動します。

第三

活動の推進にあたっては、指導教員・関連機関の指導を遵守しながら、自ら積極的に行動します。

第四

幼稚園、学校などの教育現場においては、現場の先生・職員の方々の指導に従い、協調して活動を進めます。

第五

講義で身に付けた知識・技術に加え、食育ボランティア活動を通して企画力・創造力・社会貢献力に更に磨きをかけ、自分の力とします。

IV 平成 26 年度の活動報告

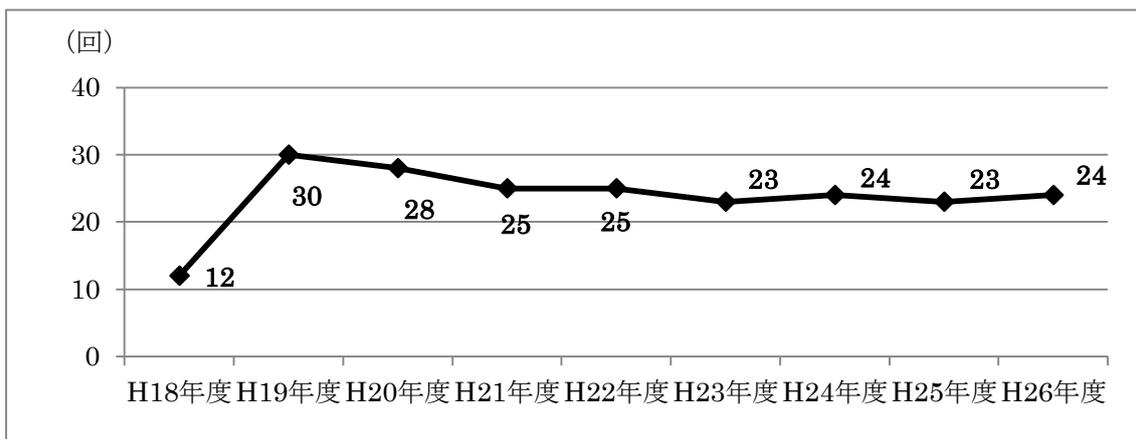
平成 26 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動一覧

	活動場所	活動日	行事名	活動者数	あすなろう 体験履修者等
1	地域	4月27日(日)	小城普茶料理食事会～春	あすなろ隊2名	
2		5月18日(日)	ひらまつ病院健康スマイルフェア	あすなろ隊4名	
3		7月5日(土)	食まなび塾①	あすなろ隊9名 教職員3名	健栄1名
4		7月13日(日)	食まなび塾②	あすなろ隊8名 教職員3名	健栄1名
5		7月19日(土)	食まなび塾③	あすなろ隊5名 教職員3名	健栄1名
6		8月18日(月) ～20日(水)	グラスホパー全国ジュニア in 佐賀	あすなろ隊10名	
7		8月26日(火)	食育推進リーダー養成講習会	あすなろ隊2名 教職員13名	健栄2名
8		9月2日(火)	小城市普茶料理調理実習	あすなろ隊2名 教職員1名	
9		10月5日(日)	日曜糖尿病教室(千代田)	あすなろ隊2名	
10		10月19日(日)	佐賀いちばん市場	あすなろ隊5名 教職員3名	
11		11月9日(日)	日曜糖尿病教室(唐津)	あすなろ隊4名	
12		11月9日(日)	パークフェスタ 2014	あすなろ隊2名	
13		11月16日(日)	小城の食育まつり	教職員2名	健栄4名
14		11月16日(日)	さが食育フェスタ 2014	あすなろ隊4名 教職員4名	健栄3名 子ども1名
15		11月16日(日) ～17日(月)	九年庵神埼アスパラにゅうめん販売	あすなろ隊6名 教職員1名	
16		11月16日(日)	小城普茶料理食事会～秋	あすなろ隊4名	
17		12月7日(日)	パパとチャレンジ! クッキング	あすなろ隊4名	
18		12月20日(土)	ほっとひろば西九大	あすなろ隊4名 教職員1名	
19		2月22日(日)	たけおの食育まつり	あすなろ隊5名 教職員3名	
20	教育現場	8月6日(水)	神埼保育園でのお茶教室①	あすなろ隊9名	
21		9月10日(水)	神埼保育園でのお茶教室②	あすなろ隊5名	
22		9月19日(金)	三潴中学校での食育講座	あすなろ隊2名 教職員4名	
23	本学	11月17日(月)	神埼高等学校での食育講座	教職員4名	健栄2名
24		10月25日(土) ～26日(日)	学園祭「食育体験コーナー」	あすなろ隊12名 教職員11名	

◆平成 26 年度食育サポートセンター・あすなる隊活動の県内分布



◆活動回数の年次推移（平成 18 年度～平成 26 年度）



1. 活動報告①（食育推進リーダー養成講習会）

目的 食育を栄養、調理、農業などの総合的な観点で推進する人材を育成し、関係団体、保育所、幼稚園、学校、地域等に派遣するため、「西九州大学、佐賀県及び佐賀県教育委員会における食育についての連携・協力協定書」第2条第2号に基づき食育推進リーダー養成講習会を実施する。

実施主体 佐賀県及び西九州大学食育サポートセンター

開催日時 平成26年8月26日（火） 13時～16時30分

開催場所 西九州大学短期大学部

参加者数 120名

（ヘルスマイト21名、ふるさと先生6名、学校食育担当者22名、保育所等児童福祉施設関係者17名、幼稚園関係者5名、市町食育担当者18名、県関係者13名、大学関係者13名、短期大学関係者5名）

講習内容 「人を育てる食育！ 地域を育てる食育！～未来につなごう和食～」

時間	内容	場所
13:00	開会 主催者挨拶（県・大学） 佐賀県くらしの安全安心課 課長 甲斐直美 学校法人永原学園 理事長 福元裕二 西九州大学 学長 向井常博	西九州大学短期大学部
13:10	講演 「伝統的日本食（和食）の健康機能」 講師：東北大学未来科学技術共同研究センター戦略的食品バイオ 未来技術構築プロジェクトリーダー・教授 東北大学大学院農学研究科機能分子解析学分野 教授 宮澤陽夫氏 座長：西九州大学健康栄養学部 学部長 柳田晃良	
14:30	事例発表 「小学校における日本型食生活伝承の取組み」 みやき町立三根東小学校 栄養教諭 古賀路子氏	
14:45	事例発表 「食育寺子屋の取組み」 武雄市こども部食育課 山下彩菜氏	
15:00	ディスカッション テーマ：地域で日本食をつなぐ食育活動の実践 ・グループワーク ・全体討議	
16:30	閉会	

実施評価

「人を育てる食育！地域を育てる食育！～未来につなごう和食～」をテーマに講習会を開催した。

講演では、伝統的日本食（和食）の健康機能について、遺伝子解析からみた有益性と食品成分からみた有益性についての検証結果が示され、栄養バランスの最もすぐれた1960年代の日本食が見直されており、生活習慣病の予防に有効であることが報告された。日本食（和食）の良さをどのように未来へ繋げていくか、食育を担当する者として考えさせられる内容であった。

事例発表では、みやき町立三根東小学校 古賀路子栄養教諭より給食時間、家庭科授業、委員会活動の中で行われている「和食について考える」取り組みについて発表があった。学校全体での食育の取り組みとして大変参考になる内容であった。

また、武雄市こども部食育課楽しい食卓係 山下彩菜栄養士より、「たけおの食育寺子屋実行委員会」での取り組みについて発表があった。食育推進計画に基づいて地域での住民参加型の様々な食育事業が行われており大変興味深いものであった。

ディスカッションでは、学校・保育園・幼稚園・行政の食育担当者、食生活改善推進員、ふるさと先生など様々な団体の代表がグループで話合うことによって、活動の情報交換ができ、地域での横のつながりが広がることを期待する。

西九大短大で食育リーダー講座 健康機能学ぶ

2014年08月28日 10時57分



食育推進リーダー養成講座が26日、佐賀市の西九州大短期大学部であった。県内で食育に取り組む管理栄養士や食育担当者ら約100人が参加、食育の大切さを学んだ。

東北大学大学院の宮澤陽夫教授が、「伝統的日本食（和食）の健康機能」について講演。1960年度と現代の和食を比較しながら、米の消費量が半減し、肉や油脂類の消費が4～5倍になっている食生活の変化をグラフなどを示しながら紹介した。

これを踏まえ、欧米化することで生活習慣病の発症率が高まっているといい、「食べ物の微量な成分も数十年摂取することで、病気予防につながっていた。栄養バランスが優れた昔の日本食が見直されている」と話した。

そのほか、小学校の栄養教諭による事例発表などが行われた。県が西九州大に委託して開催した。

佐賀新聞 LIVE 2014.8

(講習会の様子)



2. 活動報告②（学生食育ボランティアあすなる隊派遣活動）

1) 小城普茶料理食事会～春

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成26年4月27日（日）9時～16時

場 所：小城市公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（72名）

活動者数：あすなる隊2名

依 頼 先：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



《あすなる隊の感想》

- ・普茶料理や料理工程の工夫などについて学ぶことができ、とても良い経験ができた。
- ・限られた食材の中でひとつひとつの料理に手が込んでおり、普茶料理は食べる人のことを考えた心のこもったものだと実感した。

2) ひらまつ病院健康スマイルフェア

活動内容：食事バランス診断時のサポート

活動日時：平成26年5月18日（日）9時～16時

場 所：Vivo Village 健康村＊ひらまつ病院敷地内（小城市）

対 象 者：地域住民（約100名）

活動者数：あすなる隊4名

依 頼 先：医療法人ひらまつ病院



《あすなる隊の感想》

- ・管理栄養士の先生が、食事診断の結果を説明する内容を間近で聞くことができ、栄養教育の実際を学ぶことができた。
- ・対象者へアドバイスする姿勢、対応力の必要性を理解した。

3) グラスホパー全国ジュニアテニス in 佐賀

活動内容：①栄養相談のサポート

②夕食のサポート

活動日時：①平成26年8月18日（月）～20日（水）11時～14時

②平成26年8月18日（月）～20日（水）18時～20時

場 所：①グラスコート佐賀テニスコート（佐賀市）

②龍登園（佐賀市）

対 象 者：小学5～6年生のテニス選手（129名）

活動者数：あすなる隊10名



《あすなる隊の感想》

- ・管理栄養士の先生の幅広い視野からの指導が印象的だった。
- ・栄養相談の様子やスポーツと栄養の関係、子ども達とのコミュニケーション等得るものがたくさんあった。

4) 神埼保育園でのお茶教室①②

活動内容：①お茶の淹れ方のサポート、水分補給について
②お茶の淹れ方のサポート、箸の持ち方について

活動日時：①平成26年8月6日（水）13時30分～16時

②平成26年9月10日（水）13時30分～16時

場 所：神埼保育園（神崎市）

対 象 者：年長児（22名）

活動者数：①あすなろ隊9名

②あすなろ隊5名

依 頼 先：NPO 法人活気会食育部会



《あすなろ隊の感想》

- ・園児達に分かりやすく伝えることの難しさを実感した。
- ・活動を通して、子ども達との接し方やお茶の淹れ方、作法などを学ぶことができ良い経験となった。
- ・もっとコミュニケーション力を身に付けて取組んでいきたいと思った。

5) 小城市普茶料理調理実習

活動内容：①普茶料理に関する資料作成と講話

②実習時のサポート

活動日時：平成26年9月2日（火）9時～14時

場 所：小城保健福祉センター桜楽館

対 象 者：小城市民（14名）

活動者数：あすなろ隊2名、教職員1名

依 頼 先：小城市役所 健康増進課



《あすなろ隊の感想》

- ・普茶料理の資料作りと発表の準備に時間がかかったが、知識もつき、勉強になった。
- ・人前で発表する貴重な経験ができる良い機会になった。

6) 三潞中学校での食育講座

テ ー マ：今日の夕食はレストランへ！何をたべようかな？

活動日時：平成26年9月19日（金）14時00分～15時55分

場 所：久留米市立三潞中学校

対 象 者：中学1年生（145名）

活動者数：あすなろ隊2名、教職員4名

依 頼 先：久留米市立三潞中学校



《あすなろ隊の感想》

- ・食育講座の様子を見て、今回の活動で学んだことを将来に活かしたいと思った。
- ・中学生へSATシステムの流れ等の声かけができればもっと良かったと思う。

7) 日曜糖尿病教室

活動内容：体験コーナー（食事バランス診断）での補助

活動日時：平成 26 年 10 月 5 日（日）11 時～13 時

場 所：千代田町保健センター（千代田町）

対 象 者：糖尿病要指導者及び糖尿病に関心のある方（約 40 名）

活動者数：あすなろ隊 2 名

依 頼 先：佐賀中部保健福祉事務所



《あすなろ隊の感想》

- ・ウォーキングをされるなど、参加者の方は、健康意識が高いことが伺えた。
- ・二人体制だったので、活動の効率も考慮した。

8) 佐賀いちばん市場

活動内容：食育体験コーナーでの支援

活動日時：平成 26 年 10 月 19 日（日）8 時 30 分～11 時

場 所：佐賀魚市場セリ場（佐賀市）

対 象 者：来場者

活動者数：あすなろ隊 5 名 教職員 3 名

依 頼 先：九州魚市(株) 佐賀魚市場



《あすなろ隊の感想》

- ・「食育レストラン」に関心がある方が多く、子ども達も「魚釣りゲーム」を楽しんでくれ、食育への関心が高いことが伺えた。
- ・診断結果に驚く参加者も多く、改善のポイントを話す先生方の姿を見て、栄養相談の実際を学べた。

9) 日曜糖尿病教室

活動内容：体験コーナー（食事バランス診断）での補助

活動日時：平成 26 年 11 月 9 日（日）9 時～14 時

場 所：大手口センタービル（唐津市）

対 象 者：糖尿病要指導者及び糖尿病に関心のある方

活動者数：あすなろ隊 4 名

依 頼 先：唐津市保健福祉事務所



《あすなろ隊の感想》

- ・管理栄養士の先生の講話など、糖尿病の方への栄養教育について学ぶことができました。
- ・参加者や医療スタッフと食事内容や気を付けていることなどについて実際に話す事ができ、学校とは違う貴重な体験となった。

10) パークフェスタ 2014 秋のちびっこまつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援

活動日時：平成 26 年 11 月 9 日（日）9 時～14 時

場 所：蓮池公園（佐賀市）

対 象 者：来場者

活動者数：あすなる隊 2 名

依 頼 先：パークフェスタ実行委員会



《あすなる隊の感想》

- ・たくさんの子どもたちが興味を持ってくれ、楽しく食育体験をしてくれた。
- ・子ども達に声かけしながら、楽しく活動することができた。

11) 小城普茶料理食事会～秋

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成 26 年 11 月 16 日（日）9 時～16 時

場 所：小城市公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（約 60 名）

活動者数：あすなる隊 4 名

依 頼 先：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



《あすなる隊の感想》

- ・日常で精進料理にふれたり、食べる機会はあまりないので、作り方を含めて学ぶことができて良かった。

12) さが食育フェスタ 2014

活動内容：体験型ブースの出展

（テーマ：あなたの食事 適量・バランス診断）

活動日時：平成 26 年 11 月 16 日（日）10 時～16 時

場 所：サンメッセ鳥栖（鳥栖市）

対 象 者：来場者（約 200 名）

活動者数：あすなる隊 3 名、あすなろう体験 4 名、教職員 5 名



《あすなる隊の感想》

- ・食事の選択の仕方や、食事内容の傾向等を実際に見ることができる良い機会だった。
- ・「食」に対する意識の高さに驚いた。



13) 小城の食育まつり

活動内容：ステージクイズ作成・演出

食育体験コーナーでの支援

活動日時：平成26年11月16日（日）10時～16時

場 所：小城保健福祉センター 桜楽館

対 象 者：来場者

活動者数：あすなろう体験4名、教職員2名

依頼先：小城市



《活動者の感想》

- ・事前準備からイベント当日まで楽しく作業、活動ができた。
- ・子ども達と触れ合うボランティアは初めてで最初はとまどったが、次第に慣れて一緒に遊ぶことができた。
- ・人前でクイズを行い、あまり経験できない貴重な体験ができて良かった。

14) 神埼高等学校での食育バイキング講座

テーマ：バランスのよい食事とは？

活動日時：平成26年11月17日（月）15時05分～16時45分

場 所：神埼高等学校

対 象 者：高校1年生（160名）

活動者数：健康栄養学科2名、教職員4名

依頼先：神埼高等学校



《活動者の感想》

- ・食育講座の実際を見ることができて良かった。
- ・高校生の食生活がわかった。

15) パパとチャレンジ！クッキング（親子料理教室）

活動内容：料理教室の準備、サポート（食材仕分け、調理サポート）

活動日時：平成26年12月7日（日）8時45分～13時15分

場 所：アバンセ（佐賀市）

対 象 者：小学1～3年生の子どもとその父親（11組）

活動者数：あすなろ隊4名

依頼先：佐賀県立男女共同参画センター



写真提供：

（公財）佐賀県女性と生涯学習財団

《あすなろ隊の感想》

- ・子ども達は手際がよく、包丁使いも上手で驚いた。
- ・子ども達と一緒に楽しみながら活動ができた。
- ・参加者の方も楽しそうに調理をしていたので良かった。
- ・学校とは違った経験ができた。

16) 「ほっとひろば西九大」での支援

活動内容：クッキングコーナーでの支援

(クッキーツリー作り)

活動日時：平成 26 年 12 月 20 日 (土)

場 所：西九州大学神園キャンパス 子育て支援室

対 象 者：7 家族

活動者数：あすなろ隊 4 名、教職員 1 名



《あすなろ隊の感想》

- ・一人一人違うデザインや工夫があり、発想がすごいと感じた。
- ・子ども達が楽しそうに自由にデコレーションをしているのを見て自分も嬉しくなった。
- ・また、活動に参加したいと思う。

17) たけおの食育まつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援

活動日時：平成 27 年 2 月 22 日 (日) 9 時～15 時

場 所：武雄市文化会館

対 象 者：来場者

活動者数：あすなろ隊 5 名、教職員 3 名

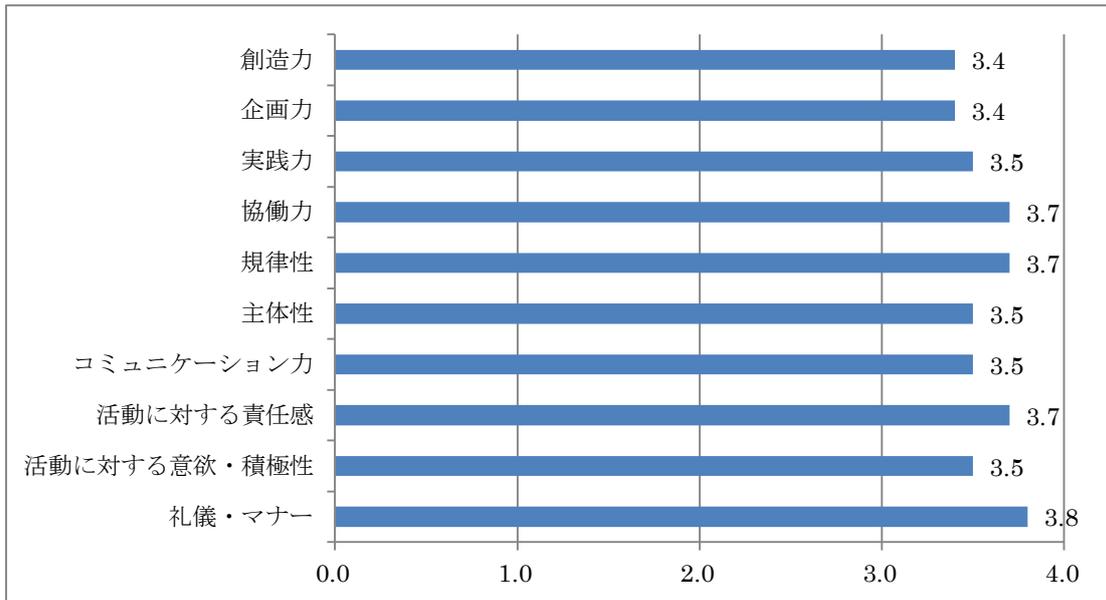
依頼先：武雄市



《あすなろ隊の感想》

- ・大学で学んだことを活かした充実した活動ができた。
- ・はじめは上手く呼び込みが出来なかったが、徐々に声をかけて参加してもらうことができた。
- ・他のコーナーを見学して色々な体験ができ、今後の参考になる貴重な活動だった。
- ・子どもから大人までたくさんの方と接することができて楽しかった。
- ・また参加したいと思った。

◆◇◆学生食育ボランティアあすなろ隊派遣に関する派遣先からの評価◆◇◆



(評価方法)

対象：平成 26 年度学生ボランティアあすなろ隊派遣先 11 団体

方法：④十分に備えている ③ある程度備えている ②あまり備えていない ①全く備えていない

派遣先からのコメント

- ・ご協力ありがとうございました。栄養士という職業を目指し、様々のことを吸収しようとする態度が感じられました。
- ・あすなろ隊のみなさんは、サポートはもちろんのこと参加者とのコミュニケーションも積極的にとっていただき感謝しています。
- ・いつもご協力をありがとうございます。最後までテキパキと仕事をしていただきました。少しでも学生さんの今後にお役に立てれば幸いです。
- ・栄養士として必要な積極性、実践力、コミュニケーション能力等を身につけてほしいです。
- ・あすなろ隊のおかげで、参加者の方にきめ細かい対応ができたと思います。学生の方の気づきも今後の参考にさせていただきます。

3. 活動報告③ (学園祭)

活動内容：食育体験コーナー

(非常食の実演、試食配布、展示、クイズ等)

活動日時：平成26年10月25日(土)・26日(日)10時～16時

場 所：西九州大学 コミュニティホール

対 象 者：約140名(体験コーナー来場者)

活動者数：あすなろ隊11名、あすなろう体験1名、教職員11名



災害支援医療緊急車両
JDA-DAT 河村号



非常食の実演・試食



非常食クイズ



非常食の展示



(パンフレット掲載チラシ)

《あすなろ隊の感想》

- ・非常時に役立つ情報を来場者に伝えられたのは良かった。
- ・子どもから高齢の方まで興味を持って聞いてくれたことが嬉しかった。
- ・はじめは、話すのも探りながらだったが、慣れると自信を持って対応できた。
- ・「自分が被災した時だけでなく、被災地へボランティアに行った時のためにもなるね」と話されていた先生の言葉が心に残った。

4. 活動報告④（神埼市内の施設を利用した食育活動「食まなび塾」）

目的 本学学生の地域でのボランティア活動により、児童に食育で育みたい力（マナー、料理のスキル、食文化など）を楽しく、実践させることを目的とする。本事業は、神埼市の横武クリーク公園「葦辺の館」を活用して行うこととし、市の食育推進に寄与するものとする。

実施主体 神埼市・西九州大学食育サポートセンター

開催日時 1回目：平成26年7月5日（土）10時～12時
2回目：平成26年7月13日（日）10時～12時
3回目：平成26年7月19日（土）10時～12時

開催場所 葦辺の館（横武クリーク公園）

対象者数 神埼市及び佐賀市内の小学生10名
（小学1年生2名、小学2年生2名、小学3年生2名、小学4年生2名、小学5年生1名、小学6年生1名）

内容

回	内 容	
1回目	○手洗いについて	○食事のマナーについて
2回目	○味覚、嗅覚について	
3回目	○おやつについて	○野菜を使ったおやつをつくらう

活動者数 あすなろ隊8名、あすなろ体験1名、引率教職員3名

評価

1回目は、正しい手洗いの方法や箸の持ち方、食器の並べ方等食事マナーについて様々な手づくり教材を使って学習した。2回目は、五味の味覚体験、嗅覚体験を実施し、五感を養う大切さを知ってもらった。3回目は、おやつについてと野菜を食べる大切さを学習し、野菜を使ったおやつの調理実習を行い、料理をすることの楽しさや野菜を食べる体験をしてもらった。

講座の内容や使用教材は、あすなろ隊を中心に考案した。子ども達の反応や取り組む姿など児童との交流を通して学んだことも多く、課題と反省もあった。この経験を学生主体の食育活動としていかに取り入れていくか今後の進展に期待したい。

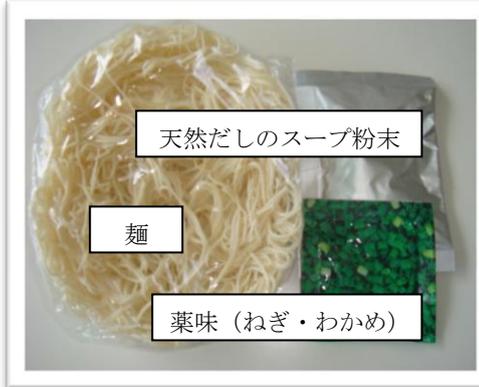


5. 活動報告⑤ (学生組織の各グループの活動)

◎「きずなレポーターグループ」の活動報告

活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、県事業への協力。 ・県内の農産物直売所、県産農産物を使った加工品などを県ホームページ「きずなのひろば」のブログへ書き込み、食と農に関する情報を発信した。 ・農業現場や加工現場へ出向き、新たな発見や生産者の思いなどをレポートし、県メールマガジン「がばい☆きずな」へ原稿を提供した。 																		
活動期間	平成26年6月27日～平成27年3月31日																		
活動者数	4名																		
ブログ書き込み	ブログ書き込み回数：22回																		
現地レポート	<p>メールマガジン掲載回数：4回(1人1回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>掲載日(号)</th> <th>訪問先</th> <th>アドレス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9月2日 (第179号)</td> <td>唐津七山 「多の四季」</td> <td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/09/_179.php</td> </tr> <tr> <td>10月1日 (第180号)</td> <td>たけおの 食育寺子屋</td> <td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/10/_180.php</td> </tr> <tr> <td>10月15日 (第181号)</td> <td>佐賀市鍋島 「永尾産ち」</td> <td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/10/_181.php</td> </tr> <tr> <td>12月1日 (第184号)</td> <td>佐賀市大和町 「佐嘉の絲」</td> <td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/12/_184.php</td> </tr> <tr> <td>1月15日 (第187号)</td> <td>佐賀市鍋島 「永尾産ち」</td> <td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/01/_187.php</td> </tr> </tbody> </table>	掲載日(号)	訪問先	アドレス	9月2日 (第179号)	唐津七山 「多の四季」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/09/_179.php	10月1日 (第180号)	たけおの 食育寺子屋	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/10/_180.php	10月15日 (第181号)	佐賀市鍋島 「永尾産ち」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/10/_181.php	12月1日 (第184号)	佐賀市大和町 「佐嘉の絲」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/12/_184.php	1月15日 (第187号)	佐賀市鍋島 「永尾産ち」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/01/_187.php
掲載日(号)	訪問先	アドレス																	
9月2日 (第179号)	唐津七山 「多の四季」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/09/_179.php																	
10月1日 (第180号)	たけおの 食育寺子屋	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/10/_180.php																	
10月15日 (第181号)	佐賀市鍋島 「永尾産ち」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/10/_181.php																	
12月1日 (第184号)	佐賀市大和町 「佐嘉の絲」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2014/12/_184.php																	
1月15日 (第187号)	佐賀市鍋島 「永尾産ち」	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/01/_187.php																	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #f96; color: white; margin: 0;">きずなレポーターの現地レポート</p> <p style="text-align: center; background-color: #f96; color: white; margin: 0;">たけおの食育寺子屋「野菜パワーで元気100%」に参加しました!</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">(レポーター:なっぼ)</p> <p>訪問日:9月6日 訪問場所:武雄市山内町</p> <p>たけおの食育寺子屋とは、武雄市が推進している食育の取り組みの一つで農家さんが教える野菜づくりの学校です。今年の体験型プログラムは、山内町オアシス会を中心としたスタッフが指導、1年を通して10組の家族が参加しています。</p> <p>最近、食育という言葉をよく耳にするようになりましたが、この食育寺子屋はなんと！6年前から続いています！</p> <p>今回は2つの体験をしました。</p> <p>◎秋野菜の種まき 大根・にんじん・小松菜・ほうれん草・かぶ・白菜・水菜・チンゲン菜の8種類の種と苗を植えました。緑の葉っぱが見えているのは白菜です！私も、ほうれん草の種まきに参加させてもらいました。</p> <p>「土が一番大事！次にお天気！」と、参加者のおばあちゃんに土の大事さを教えてもらいました。 この土は、とてもいい土だそうです。野菜たちが、大きく育ちますように☆</p> <p>◎夏野菜の収穫 家族ごとに育てたミニトマト・きゅうり・なすを収穫。立派な野菜たちが収穫できていました！その野菜を使ってピザを作り、みんなで食べました。</p> <p>農薬を使わずに作っているので、安心して食べられると塾長の下平さんがパーマンを丸めじり！ それを、見た子どもはビックリして思わず遠く場面も(笑)</p> <p>参加している子どもたちは、野菜嫌いをするこなく農園の笑みでピザをほおぼっていました。自分で育てた野菜を食べるということは、子どもたちにとって一生の財産になると思いました。</p> </div>																		
今後の課題	生産・加工・流通・販売等の見学で現場を知り、情報の収集、発信を行うことは管理栄養士にとってよい経験となる。参加学生の拡大を図りたい。																		

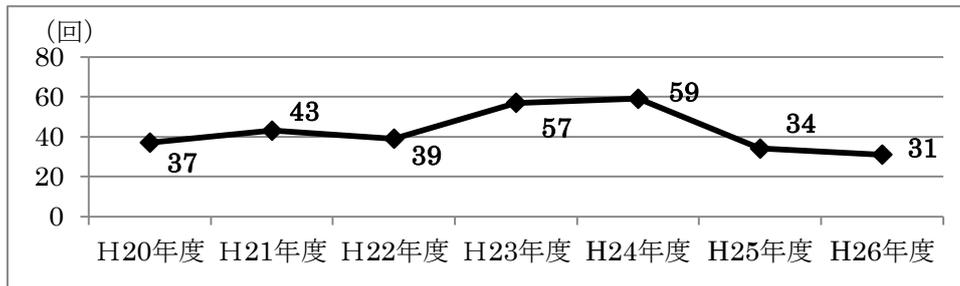
6. 神崎市との取り組み

<p>活動内容</p>	<p>神崎市および神埼そうめん組合（ヤクルト食品工業株式会社）とによる地元食材を利用し、昨年度開発した加工食品「神埼アスパラにゅうめん」を秋の九年庵一般公開に合わせて限定販売を行った。</p> <p>（特徴）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐賀県産のアスパラガスの濃縮液をそうめんに練り込んでいる。 2. 化学調味料無添加のスープ 3. 塩分を 3.13g に抑えた。 4. お湯を注ぐ簡単調理。 <div data-bbox="464 853 943 1240" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> <div data-bbox="959 562 1350 1346" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>
<p>活動日</p>	<p>平成 26 年 11 月 16 日（日）～17 日（月）</p>
<p>活動者</p>	<p>16 日 4 名 教職員 1 名、17 日 2 名</p>



7. 教材の貸出状況

◆教材貸出回数年の次推移（平成 20 年度～平成 26 年度）



① 食育 SAT システム（貸出回数 10 回）

貸出先	利用目的	貸出回数
ひらまつ病院	イベント（健康フェア）	1 回
やよいがおか鹿毛病院	イベント（子どもお仕事探検隊）	1 回
小城市役所	事業（夜間ヘルスアップ教室での栄養指導）	1 回
佐賀中部保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室での相談・体験コーナー）	1 回
中原特別支援学校	授業	1 回
唐津保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室での相談・体験コーナー）	1 回
福岡県栄養士会筑後支部	イベント（柳川山門医師会市民公開講座）	1 回
伊万里特別支援学校	授業	1 回
金立特別支援学校	授業	2 回

② 食育天びん“はかるくん”（貸出回数 8 回）

貸出先	利用目的	貸出回数
やよいがおか鹿毛病院	イベント（子どもお仕事探検隊）	1 回
佐賀県くらしの安全安心課	第 9 回食育推進全国大会出展	1 回
大分県生活環境部食品安全・衛生課	イベント	1 回
佐賀市富士学校給食	授業（栄養講話）	1 回
久留米市保健所	イベント（久留米大学学園祭での体験コーナー）	1 回
唐津保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室での相談・体験コーナー）	1 回
東伊豆保健センター	イベント（栄養相談）	1 回
伊万里特別支援学校	授業	1 回

③ その他の教材（貸出回数 13 回）

貸出教材名	貸出先	利用目的	貸出回数
野菜タペストリー (6回)	佐賀県くらしの安全安心課	第9回食育推進全国大会出展	1回
	宗像PTA	イベント（親子食育の会）	1回
	太良町	事業（子どもクッキング教室）	1回
	九州食育生活コミュニティ	保育園での食育	1回
	九州食育生活コミュニティ	小学校での食育	1回
	牛津小学校	子ども委員会活動	1回
消化器について知ろう (1回)	宗像PTA	イベント（親子食育の会）	1回
食育輪投げ (2回)	太良町役場	事業（子どもクッキング教室）	1回
	牛津小学校	子ども委員会活動	1回
魚つりゲーム (2回)	宗像PTA	イベント（親子食育の会）	1回
	牛津小学校	子ども委員会活動	1回
食育すごろく (1回)	パークフェスタ実行委員会 蓮池公民館	イベント（食育コーナー）	1回
はてなボックス (1回)	九州食育生活コミュニティ	小学校での食育	1回

◎貸出先からの感想

食育SATシステム

- ・使い方もわかりやすく、スムーズに活用することができた。
- ・栄養のバランスを確認する時も具体的に料理名で指導でき、バランスを考えて料理選択することを意識させることができた。
- ・栄養量を知るのに具体的で好評だった。必ず、結果表をもとに説明やアドバイスを行うシステムが、スタッフにとっても指導がしやすくよかった。
- ・食事の聞き取りが簡略化され、即座に対象者の方に結果説明ができ大変効率が良かった。

食育天びん“はかるくん”

- ・天びんで目に見えて分かりやすく、やり方や主旨もすぐに理解できていた。ゲーム感覚で理解できる、大変よい啓発媒体だった。
- ・年齢に関係なく、楽しく取り組んでもらうことができた。
- ・エネルギー消費について視覚的に知ることができ、楽しく学ぶことができていた。

その他の教材

- ・主食、主菜、副菜と読み上げるたびごとに自然と食事のバランスを知ることができた。（食育輪投げ）
- ・教材はわかりやすく幼児にも目をひくものでした。（消化器について知ろう）